

第三十四回 現代詩花椿賞受賞作

伊藤悠子『まだ空はじゅうぶん明るいのに』（思潮社）

一九四七年東京生まれ。津田塾大学卒業。二〇〇五年頃から詩作をはじめ。第一詩集『道を 小道を』（ふらんす堂）で注目を集め、第二詩集『ろうそく町』（思潮社）は二〇一二年第四十四回横浜詩人会賞を受賞。第三詩集となる『まだ空はじゅうぶん明るいのに』（思潮社）は、エッセイ集『風もかなひぬ』（思潮社）と同時刊行。

まだ空はじゅうぶん明るいのに

まだ空はじゅうぶん明るいのに

フエニックスも松も

影をなくしている

それでこんなに景色はしずか

海沿いのホテルの庭の

遊具の動物たち

ライオン、パンダ、ウサギ、カメ、イルカがみえる

五つでゆるやかな弧をえがいている

このしずけさにふさわしいものはこうしたもの

小さいひとを驚かさないうちにいつも先にぼんやりと驚いているような

ライオン、パンダ、ウサギ、カメ、イルカ

いちども命がなかったもののおだやかさで

この星にいて